

### 第3回神戸市外郭団体の経営評価に関する委員会議事要旨

1. 日 時 : 平成 29 年 1 月 13 日(金) 10:00~11:40

2. 場 所 : 1 号館 14 階 1141 会議室

3. 要旨

- ・神戸市外郭団体の経営評価に関する委員会規則第 8 条に基づき、会議の公開が確認された。
- ・委員長より議事に入る旨の発言があり、事務局から会議資料の説明を行った。
- ・会議における委員及び事務局の主な発言は以下のとおりであった。

(意見交換) ○: 委員の発言 ●: 事務局の発言

#### 【財務状況等の概要について】資料 1、2

事務局より H27 年度に赤字となっている団体について、資料 1 を用いて説明した。

- : (公財) 計算科学振興財団については、平成 25 年度に補助金を受けて構築した次期スパコンの減価償却により赤字となっている。
  - : (公財) 神戸都市問題研究所については、基金を取崩して神戸市に貢献する事業を実施することとなっているため、3 年連続赤字となっている。それ以外の経常的な収支は黒字となっている。
  - : (公財) 神戸いきいき勤労財団については、平成 24 年度に公益事業が黒字となったため、収支相償の考えに基づき赤字を出して公益サービスの充実に充当している。
  - : (公財) 神戸市民文化振興財団については、記念事業として新しくオペラ等を実施したが、その結果収支が悪化したため、赤字となっている。
  - : (一財) 神戸市地域医療振興財団については、手術室増室工事等に伴う入院制限の解除により、資金収支は黒字化したが、給与の増改定等により赤字となった。
  - : (社福) 神戸市社会福祉協議会については、基金を取り崩して事業実施しているため 3 年連続赤字となっている。
  - : (一財) 神戸みのりの公社については、経常的には黒字となっている団体であるが、ぶどうの生産計画の見直しに伴い、基金の取り崩しを行っているため、赤字となっている。
  - : くつのまちながた神戸(株)については、不動産賃貸業での赤字が大きく、3 年連続赤字となっている。シューズの販売促進事業は若干好転している。
  - : (一財) 神戸市水道サービス公社については、執行体制・給与見直しにより経常収益は好転したが、特別損失として出先事務所の撤去費用と早期退職割増金を計上したことにより赤字となっている。
- : 資料 2 様式 1-4 市の財政的関与について、(一財) 神戸市地域医療振興財団の負担金が大幅に減少した件について、補足説明をお願いしたい。また、阪神国際港湾(株)の貸付金残高の大幅な増額理由を教えてください。
- : 増改築については、市と団体が費用を折半することとなっており、平成 27 年度は多額の負担が必要であったことがあげられる。また、埠頭の建設事業のスキームとして、建設主体は阪神国際港湾(株)であり、国からの貸付金が神戸市から団体に回るスキームとなっている。ガントリークレーンの整備(1基 10 億円)を今後も取り組んでいくため、貸付金の残高は増える予定となっている。平成 27 年度は 3 基新設した。返済については、3 年間の据え置きがあるため、29 年度より開始となる。それまで減ることはないが、ガントリークレーンの使用料できちんと返済できる見込みとなっている。国のスキームとして理解している。

- ：オーバーナイトについて、新規の短期貸付はしないという市の方向性は変わらないか。解消していくべきだと考えるがどうか。
- ：市の方向性は変わらない。現存する貸付金については、民間からの長期借入金に切り替える方向で進めている。
- ：こういったやり方は正確な経営実態を表しておらず、住民に正しい情報を理解いただくといった原則から外れている。今後解消していく方向性と聞いて納得した。
- ：赤字について、基金の取り崩し等計画的な見通しのあるものであったのか、もしくは、事業の失敗等による予期しないものであったのか、ケースにより扱いが異なってくる。  
（公財）神戸市民文化振興財団の赤字について、流動資産を見ると特に問題ないが、記念事業など、計画の失敗により赤字となっているのか、それとも、そもそも公益的な事業で赤字を見込んで実施していたのか、詳細を確認していただきたい。
- ：ミッションの評価はAとなっても、収支は反映されていないことがある。今後改善が必要かもしれない。

### 【ミッションの評価の概要について】資料3、4

事務局より各団体のミッションと事業目標に対する平成27年度の評価について、資料3を用いて説明した。

- ：資料3には、各局が団体に示したミッションを項目程度に圧縮する形で記載しており、括弧でくくっているのは、市で設定している評価指標となっている。資料3の一番右の列に「事業評価（団体）」と示しているものは、各団体で実施するミッションに基づく事業の評価結果をまとめて記載している。これは、資料4の様式2-2で各団体が事業の自己評価（1次評価）を行っているものを件数のみ抽出している。
- ：また、中央列には「ミッション（所管局）」と示しているが、団体の自己評価（1次評価）を受けて、ミッションを達成しているかどうか、所管局の2次評価をまとめて記載したものであり、資料4の様式2-3のコメント欄中に各局が評価を与えたものを抽出している。
- ：さらに、その左側に「総合評価（所管局）」と示しているが、ミッションの達成度合いを判断して、所管局が団体の総合評価を行ったものであり、資料4の様式2-3の総合評価欄を抽出したものである。
- ：各項目について、S・A・B・Cとの区分を設けているが、評価の基準については共通しており、資料3の表の下側に示しているとおり、  
S：単年度の目標実施が120%以上と大きく目標値以上を達成している  
A：単年度の目標実施が100%以上と目標値以上を達成している  
B：単年度の目標実施が60%以上と目標値を達成するためにさらなる対策が必要  
C：単年度の目標実施が60%未満と目標値そのものの修正が必要  
となっている。
- ：評価の傾向であるが、各団体の事業評価では、34団体全てで123事業となっており、S評価 11事業、A評価 97事業、B評価 15事業、C評価 0となっている。
- ：また、所管局のミッション評価では、34団体全てで95のミッションがあり、S評価 6、A評価 79、B評価 10、C評価 0 となっている。
- ：総合評価では、34団体でA評価32団体、B評価2団体となっている。
- ：このとおり、一覧表より、多くの事業・ミッション・団体がA評価となっている傾向がわかるかと思う。そこで、総合評価がB及びミッションの評価がS又はBとなっている箇所に網掛けを

させていただきました。委員の先生方には、この一覧表をきっかけに特徴的な団体の分析や、今年度初めて着手したミッションの評価に関して、制度や実施の方法も含めてご意見いただければと考えています。

- ：全体でS評価だと元々の目標設定が適切であったのか、つまり低めに設定されていたのではないか、それとも努力した結果S評価なのか判断できない。逆にB評価についていうと、例えば、(一社)神戸港振興協会の様式2-2に台風などで上半期入場者数が伸びなかったとあるが、自然の変化で目標が達成できなかったというのは酷かと感じた。

例えば、「評価の理由がわからず、きちんと分析されているのか不明である。」「他団体についていうと、相談件数は増加したが、相談者の満足度はどうか、解決できたのか。」というように、件数だけでは分からないため、具体的内容を把握しておく必要がある。

- ・(公財)神戸国際協力交流センターについて、奨学生同窓会の立ち上げだけでなく、同窓会の参加者数は会員621名中何名であったのか、活動内容が有意義であり役立っているかどうかという点も踏まえるべきである。

- ・(公財)神戸都市問題研究所について、様式2-2の神戸市国際戦略形成・人材育成プログラム事業として季刊「都市政策」で研究成果を公表したが、神戸市にそれがどう影響したのか。

- ・(公財)神戸いきいき勤労財団について、実施した講座の具体的内容や参加者にとって有意義であったのか、つまり市民の満足度を得られているのか。アンケート調査結果等を踏まえ、今後の活動に繋げていくような評価でないと意味がない。

- ・(公財)神戸市民文化振興財団の文化振興事業について、入場者数や応募者数が掲載されているが、市民にどれだけ還元されたのか。「神戸の文化芸術を担う人材の育成」についても、人材育成がどのように実施されたのか。また、「高く評価できる」と記載されている箇所もあるが、数値で表すことのできない事業はどう評価するのか。

また、平成27年度目標を達成できていないにも関わらず、次年度の目標数値を上げた団体についても気になった。

- ：アウトカムな指標が目標設定の際に不足していると感じる。所管局のミッションに合った指標が必要である。数値的な目標が設定されている事業とそうでない事業があるが、満足度調査等による数値化等、評価の方法をもっと工夫できるのではないか。

損益的数値の動きとミッションの達成評価を一緒に検討できるような形ができればよいが。

- ：定量的指標では判断できないものもある。努力度だけでなく、計画の妥当性も踏まえ、各事業についての質的評価が必要。所管局も総合評価について悩まれたのではないか。

- ・(一財)神戸港振興協会は総合評価をA評価としているが、内容を確認するとS評価でもよいと思う。

- ・神戸新交通(株)についても、団体の事情ではない要因で目標が達成できなかった事業について厳しめに評価をされている。

- ・みのりの公社は総合評価をA評価とされているが、ミッションごとに確認すると、主要事業がB評価となっており、質的にA評価が妥当であるのか疑問である。

評価については、市民に対し誤ったメッセージを送ってしまわないか心配である。問題意識を持ち、質的に判断できるよう総合評価の方法を検討する必要がある。

- ：昨年度の評価委員会では、評価がB、Cの団体について所管局の意見を踏まえ、委員会でヒアリングを行った上で意見を記載するということがあったが、本日の議論を踏まえると、対象団体全てに一律でヒアリングを行わず、書面に基づいて意見を頂くことも考えられる。

- ：神戸新交通(株)について、運行遅延についても、遅延の程度や、その際の乗客への対応が重要

である。目標が運行遅延0件であり、2件発生したためにB評価というのでも杓子定規な気がする。

- ：プラスの意見も含め、必要な団体について記載することとする。来期に向け、年度内にコメントすべき団体に対する必要な意見を検討する。
- ：評価はS・A・B・Cのままでもいいか。ほとんどがA評価に流れてしまう点も含めて検討していきたい。
- ：当評価委員会については、お互いの役割や市民に対しどういった価値を提供しているか考えるきっかけとなり、一定の役割を果たせたと思う。しかし、次年度以降、当評価がルーティンワークになる可能性が高く、今後も問題意識を持ちながら評価を続けていただきたい。
- ：これまでの議論を踏まえ、次年度以降の評価のあり方、評価シートの責任の所在を明らかにすることについて検討していく。また、必要な団体についての評価委員会の意見を記載する作業を行っていく。

#### 【H27 ヒアリング意見・検討項目について】資料5

事務局より資料5の報告を行った。

- ：(一財)神戸国際観光コンベンション協会について、所管局検討結果の内容として神戸DMOを通じた推進をされるということであるが、具体的なスケジュール等詳細な内容を説明いただきたい。
- ：(一財)水道サービス公社についても、検討開始や結果の公表時期についてより具体的に示していただきたい。
- ：(一財)神戸在宅医療・介護推進財団、(社福)神戸市社会福祉協議会による認知症介護相談について、同じ市内であるのに居住地によりサービスの質が低下する等のないようにしていただきたい。
- ：(公財)こうべ市民福祉振興協会について、しあわせの村を管理するという管理面、場所を活かした取り組みを行うという機能面での役割を果たしているかという点が当初の問題意識であったはずだが、所管局の検討結果を見ると今後は懸念される。
- ：保健福祉関係の事業でいうと、市の固有事業である場合とそうでない場合があるとのことであるが、保健福祉局には病院や介護・医療、福祉について市民に対しどういったサービスが提供されているか、全体像をマップにしていきたい。神戸市は他都市に比べ充実した保健福祉サービスを提供していると感じるので、全体像を見せていただくと市民の理解も深まると考えられる。
- ：本質的、具体的な問題点に迫るためには、非効率であっても、昨年度同様団体に直接ヒアリングする手法を取らざるを得ない。団体が果たすべき役割を明確にし、市がそのためにどういった対応が必要なのか検討してもらうことが委員会の意義である。
- ：委員会の目的は、団体をなくすことではなく、団体に必要な役割を果たしていただくことであるため、今後も必要な意見交換を行っていきたい。

#### 【次回スケジュール関連】資料6

- ：年度内に第4回評価委員会を開催し、今年度の活動報告書の作成、評価シートへのコメント等について議論していきたい。また、平成29年度の委員会の方向性についても合わせて議論したい。